

佐藤 稔 議員



「書かない窓口」の推進について

問 市役所窓口業務における「書かない窓口」への取り組みが進められているが、市の現状と今後の課題等について伺う。

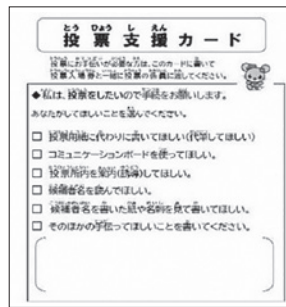
答（市長） 課題はないが新しい取り組みに時間がかかっている。デジタル社会に対応した次世代型行政サービスへの改革と捉え、今後も積極的に進めていく。

答（市民部長） 各庁舎にタブレットを配置し、申請書を書かずに

証明書を取得できるようになっている。今後は、国の動向を注視しつつ、最適な書かない窓口の推進に努めていきたい。

「投票支援カード」の導入について

問 障がい者や高齢者が安心して投票ができるように、投票時にサポートしてほしい内容が記載された「投票支援カード」の導入を提案するが、市の考えを伺う。



投票支援カード（四国中央市）

答（選挙管理委員会書記長） 投票支援カードは、どのような支援を求めているかをすぐに判断できるため、円滑な投票事務につながると考える。導入に向けて検討し、投票しやすい環境づくりと市民への周知に努めたい。

「空き家対策への新たな取り組み」について

問 今回の空き家対策特別措置法の改正では、管理が不十分な空き家について固定資産税の減免措置が対象外となるが、今後の市の対応について伺う。

答（市民部長） 第2期古河市空き家等対策計画を基に、対応策を提案したいと考えている。今後は空き家を有用な資産と捉え、利活用を促進していきたい。



印出 慎也 議員



地域における学校とスポーツの振興について

問 学校は地域の市民にとって貴重なスポーツの場所でもある。市民からの学校施設への要望をどう対応していくのか伺う。

業で小学校の体育館や校庭を市民に開放している。地域の要望も勘案し、夜間照明の改修など修繕計画を立て実施している。

道路行政について

問 市議会議員に当選してから、市民からの要望で一番多いものが道路に関するもので、透明性確保のためにも整備する道路の優先順位を古河市ホームページへ掲載すべき。

答（市長） 市民の皆さんは切実な思いで要望している。生活道路整備評価基準表により整備の理由は説明できるが、すべてを公表することで整備しないと受け取られてしまうこともあるため、公表するのは難しいと考え

ている。

地域活性化の推進について

問 令和5年4月に市はブランド戦略室を設置したが、その目的を伺う。

答（企画政策部長） 市民意識調査を分析し、課題解決のためブランディングの手法を用いシビックプライド^(※)を醸成することが有効であると考え設置した。

風通しのよい市役所の実現について

問 過去10年のハラスメント認知件数を伺う。

答（総務部長） 平成30年度以降、認知件数は無かった。



答（教育部長） 学校施設開放事

※シビックプライド…地域への誇りと愛着のこと